

## 第277回 番組審議会

1. 日 時 平成30年11月13日（火）12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 8名  
出席委員数 6名（欠席委員数 2名）

### ○ 出席委員（敬称略）

鈴木 厚人（委員長）

砂子田 智（副委員長）

—以下50音順—

石田 征広

菅原 正二

高橋 博昭

八木橋 伸之

### ○ 会社側出席者（5名）

藤澤 利憲（代表取締役社長）

小原 忍（取締役副社長）

藤原 銀司（常務取締役）

齋藤 秋水（常務取締役）

工藤 浩（取締役）

### ○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議 題 『東北・みやぎ復興マラソン2018』  
平成30年10月13日(土)、14日(日)

講 師： 山口 浩一郎 様 (株式会社仙台放送  
営業局長兼マラソン事業室長)

5. 議事概要

今回は、株式会社仙台放送営業局長兼マラソン事業室長の山口浩一郎様を迎え、10月13日と14日に開催された「東北・みやぎ復興マラソン2018」について講演して頂きました。議事の概要は、以下の通りです。

●株式会社仙台放送営業局長兼マラソン事業室長 山口浩一郎様のお話

・「東北・みやぎ復興マラソン」は、昨年仙台放送開局55周年事業として第1回を開催し、今年10月13日と14日に第2回を開催した。参加人数は全ての種目を合わせて約1万3千人。全国47都道府県全てからエントリーして頂き関心の高さを身に染みて感じている。

・今回優勝したのは、地元宮城県出身でコニカミノルタ所属の野口拓也選手。この大会では、ぶっちぎりで優勝した。我々も地元の選手に優勝してもらい良い形でジョイントできたと思っている。

・なぜこのマラソンをはじめたのか、それは、東日本大震災で大きな被害を受けて、震災から再生しつつある東北宮城の大地を踏みしめて、県内外の人々とともに新しい感動、記憶、元気を作り出したい。未来へ力強く歩いていく思いを共有する場にしたい、そんな思いからだった。

・そんな我々の思いや、全選手の名前を載せて、読み物として、復興マラソンの一部として、大きな意味を持った「オフィシャルメモリアルブック」というパンフレットを作成した。このマラソンに関わる人の思いを随所に散りばめて、参加した皆さんに捨てないで取っておいてほしいという思いも込めて作った。

・未曾有の大災害だった東日本大震災も7年経つと風化されていて、地元のメディアとして危機感を抱いていた。我々メディアが出来ることはどんなことだろう、地域に人を呼んでくること、地域を発信していくこと、自分たちの得意

な分野を活かして復興に寄与できないかと考えて、マラソンをやろうということになった。

- ・“復興”という名前を入れたのは、我々の思いを新たにして、きちっと全国に打ち出すためだった。東日本大震災は被災地は東北全体だと思っているので、“東北”という名前も入れることにした。

- ・こだわったのは、1万人規模の大きな大会にしようということ。大きな大会にすることで注目も高まり、発信力も増すだろうという思いを持って開催した。

- ・コース全域が、津波で水を被った名取市、岩沼市、亶理町の南北20キロに渡るエリア。こうした場所を走ることで復興の地を踏みしめて“いま”の復興の状況を見てもらうことが大きな部分と考えている。7年経ってどう変わったのか、何が変わって何が変わらないのか、そんなことを見てもらうことも復興マラソンの意味と考えている。

- ・マラソンには、給水所、エイドステーションがある。その中で、「BACK TO THE HOME TOWN」とこだわった集落の名前をつけ、その地域に住めなくなった人たちにボランティアをしてもらい、その地域の食べ物を出してもらったり、郷土芸能を披露してもらったり、ランナーと触れ合ってもらうことも行った。

- ・岩手からは陸前高田市、宮城県からは女川町、福島県からは飯舘村もらって給水所を運営し、ランナーと触れ合ってもらった。

- ・完走のメダルは雄勝石で、リボンには熊本の会社で、車椅子ジョギングのリボンは神戸タータンを使い、大きな災害を受けた地域を思いやりながら発信していこうという仕掛けも行った。

- ・昨年、“復興マルシェ”が好評で、ランナーに最後まで楽しんでもらったが、それが大きなアダとなり帰りの輸送計画が破綻した。今年は、その反省を踏まえスタートとゴールを分けるなど大手術を行った。その結果、今年はお褒めの言葉をたくさん頂くことができた。

- ・このマラソンの将来について、あくまで私見だが、東北を代表するようなマラソン大会にしたいと思っている。選考レースを目指す選手にとって登竜門に

なればいい、東北出身のランナーが初めてマラソンを走る時にはこの大会を選びたいということになれば、意義は増すだろう。また、“復興”の文字が取れるといいのかなと思っている。

●出席した委員からの意見

・他県の人にとっては、「千年希望の丘」など、復興の状況をもっと紹介してほしかった。

・地域の人たちは、あれだけ人が集まってくれたら嬉しかっただろうと思いつながら見た。

・女性アナウンサー、リポーターの頑張りが目立っていた。てきぱきとさばいて見事だった。

・風化の危機感は、3県共通。是非、何かトライしてほしい。

・1万人を超えるメガマラソンを民間主催で行うことは大変意義のあることだと思った。

・震災後の現在の状況が見える映像があり、“いま”を伝えるという意味でも良い番組だった。

・マラソンコースの南半分のところにある玉浦地区は、復興における地方創生というところで「住民主役」という非常に大事なことをやった。次回、是非紹介してほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び

年月日

※平成30年11月14日（水） 産経新聞 東北版

※平成30年11月24日(土)午前4時12分から4時15分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

#### 8. その他の参考事項

特になし

※12月は休会。

次回は、平成31年1月15日(火)12時より「星雲西の間」にて開催予定です。